

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 3 区分
【発行日】令和 4 年 4 月 18 日(2022.4.18)

【国際公開番号】WO2021/020366
【出願番号】特願 2021-535344(P2021-535344)

【国際特許分類】

B 2 3 B 27/14(2006.01)

C 2 3 C 16/36(2006.01)

C 2 3 C 16/40(2006.01)

10

【F I】

B 2 3 B 27/14 A

C 2 3 C 16/36

C 2 3 C 16/40

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 1 月 24 日(2022.1.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 6

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 6】

前記複合突起は、前記第 2 突起の突出方向に交わる方向に突出した第 3 突起を有する、請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の被覆工具。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【0031】

本開示の被覆工具 1 においては、図 5 に示すように、被覆層 7 が、基体 5 から順に、TiN 層 10a、第 1 TiCN 層 10b、第 2 TiCN 層、中間層 9、Al₂O₃ 層 11 を有していてもよい。このような構成を有すると、寿命の長い被覆工具 1 となる。第 1 TiCN 層 10b は、後述する MT-TiCN 層であってもよい。第 2 TiCN 層は、後述する HT-TiCN 層であってもよい。また、表層（図示せず）として、TiN 層などを設けてもよい。表層は、窒化チタン以外の炭窒化チタン、炭酸窒化チタン、窒化クロム等の他の材質であってもよい。表層は有色の材質からなり、切刃の使用の有無を容易に判別する機能を有していてもよい。表層は 0.1 μm ～ 3.0 μm の厚みで設けてもよい。

【手続補正 3】

40

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

被覆工具 1 は、第 1 面 2 及び第 2 面 3 が交わる稜線における切刃 4 として用いられる部分の少なくとも一部がホルダ 105 から外方に突出するようにホルダ 105 に装着される。本実施形態においては、被覆工具 1 は、固定ネジ 107 によって、ホルダ 105 に装着されている。すなわち、被覆工具 1 の貫通孔 17 に固定ネジ 107 を挿入し、この固定ネジ 107 の先端をポケット 103 に形成されたネジ孔（図示しない）に挿入してネジ部同士

50

を螺合させることによって、被覆工具 1 がホルダ 1 0 5 に装着されている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 5】

1	被覆工具	
2	第 1 面、すくい面	
3	第 2 面、逃げ面	10
4	切刃	
5	基体	
7	被覆層	
9	中間層	
1 0 a	T i N 層	
1 0 b	第 1 T i C N 層	
<u>1 1</u>	A l 2 O 3 層	
1 3	第 1 突起	
1 3 a	第 1 突起の麓	
1 3 b	第 1 突起の先端	20
1 5	第 2 突起	
1 5 a	第 2 突起の麓	
1 5 b	第 2 突起の先端	
1 7	複合突起	
1 9	第 3 突起	
1 0 1	切削工具	
1 0 3	ポケット	
1 0 5	ホルダ	
1 0 7	固定ネジ	

30

40

50